

# the People

元気なまちには 元気な主張を続け  
元気に行動する 市民がいる

the people (ザ・ピープル)  
2014年 11月1日発行

発行：特定非営利活動法人 ザ・ピープル  
代表者：吉田 恵美子  
所在地：福島県いわき市小名浜字蛭川南5-6  
タウンモールリスポ内  
TEL：0246-52-2511 FAX：38-9538  
E-mail：the-people@email.plala.or.jp  
URL：http://www.iwaki-j.com/people/

## ＊ 3度目の収穫祭スタート!! ＊

ふくしまオーガニックコットンプロジェクトにとって、3度目の収穫シーズンが到来しました。巨大台風が2度続けざまに接近し、心配な夜も幾晩か経験しましたが、ありがたいことに、いわきでは大きな被害を被ることなく済みました。現在は、各畑とも徐々にコットンボールが弾け出している状況です。その様は、うす茶色の小さなくまのぬいぐるみが少しずつ色づき始めた葉陰にぶら下がっているようです。収穫作業のお手伝いに畑に入られる



ボランティアの皆さんは、その姿の可愛らしさに歓声を上げ、収穫しようと伸ばした指先に触れるふわふわの手触りにまた歓声を上げています。11月には、「収穫祭」と銘打って、今年の栽培に関わって

くださった皆さんと畑で収穫と交流を楽しむ機会を持ちたいと計画しています。この収穫祭のときには、お買い求めになられたふくしまオーガニックコットンTシャツに、畑の地区名と絵柄の入ったオリジナルシルクスクリーンプリントをご自身の手でプリントする体験もお楽しみいただけます。他にも各畑の管理責任者の農家さんたちが、特別企画を用意して待ってられるようです。全ては参加してみてものお楽しみです。お近くにお住まいの皆さんも是非、ご参加ください。なお、準備の都合上、参加を希望される場合は、事前に申し込みをお願いいたします。また、昼食代など参加費を徴収させていただきますので、ご了承ください。

### ● 収穫祭 スケジュール

- 11/2(日)、3(月)・・・夏井ふあーむ
- 11/8(土)・・・広野畑、かじろ伊藤農園、平平窪鈴木さんの畑、小川畑
- 11/15(土)・・・夏井ふあーむ
- 11/22(土)・・・柳生中山、かじろ伊藤農園

## 広野町スペシャル収穫祭



いわき市の北隣り双葉郡広野町でも、オーガニックコットンがすくすくと育っています。

こちらの栽培には、東京の認定NPO法人「JKSK女性の活力を社会の活力に」(大和田順子 理事長)が応援のボランティアバスを定期運行して下さっています。そして、この作業日には広野町の遠藤智町長も顔を出して、参加者の皆さんと一緒に農作業に汗を流して下さっています。次回は11月8日。ちょうど広野町は秋祭りの日にあたります。そこで、広野町民の皆さんにもお祭り

りついでにコットン畑を覗いてください!とのチラシを作成し、参加を呼びかけています。(地球環境基金助成事業)

作業後には、津波被災エリアで進められている復旧工事の現場を見学し、今後整備される防災緑地の活用についてみんなで話し合う時間も設けられています。首都圏からのボランティアの皆さんとの意見交換の中から新しいプランが生まれることを期待したいと思います。

## 遠く離れた金沢市でも

石川県金沢市立諸江小学校では、3年生103名が今春からコットン栽培を行ってきました。いわきからの種を使っての栽培でしたが、なかなかうまく育たずに心配していました。それでも漸く収穫できたとの報を受けて、10月24日、収穫された綿といわきからの綿を合わせてコットンパイプを作る出前授業への講師派遣を行いました。(地球環境基金助成事業)

当日は全校音楽集会在1、2時限にあり、学年ごとに合唱の披露がありました。3年生はコットン栽培を通して福島への支援の思いを深くし、その思いを込められる曲をとということで、ミュージカル「アニー」からTOMORROWを歌いました。歌詞の意味を大事に伝えようとする姿には胸を打つものがありました。

休憩時間にコットン畑を見学したあとは、3、4時限で103名がコットンパイプづくりと綿繰り体験を行いました。いわきから送られた沢山のうす茶色の綿に大喜びの児童の皆さんは、細かな作業に手こずりながらも、思い思いのパイプを完成させていました。こうした形でのオーガニックコットン栽培を通じた交流が各地に広がることを、次年度以降も進めていきたいと思



います。

**つぶやき**

先頃、二人の子供たちから誕生祝いに「掃除ロボ」をプレゼントされた。2匹の室内犬と3羽の小鳥を飼っているため室内の掃除は朝夕欠かせない。忙しく仕事に飛び回る私の姿に子供たちは同情したのかもしれない。少々大げさな表現だが今や私にとっては片腕であり味方、それ以上に癒しの存在になつてしまった。丸い形をした30センチ程の小さなロボット。スイッチを入れるや「ヤッホー」機嫌いいかがと可愛らしい声を発して早速掃除に取りかかる。30分間ほどくる回りながら部屋中を掃除。終了するや「作業終了」と言い「たいたいま」で充電器に戻る。何よりも笑えるのはイス等につかると「テヘハ」イテテとなる。そして別な部屋を掃除させようと本体を移動したりすると不機嫌な返事の「はいはい」が返ってくる。大きなゴミがブラシに絡まったりするや「助けてー」「ゴミが一杯になると「苦しいよ」と叫ぶ。様々な言葉を発するこの「掃除ロボ」を作り上げた科学技術の発展と製作者の能力に只々感服である。▼ところで今から40年程前、私の年齢だった母にフアックスの話をしたことがある。「まー、凄いな時代になりましたね。長生きすると、いいことが一杯見られるんです。今私はあの日の母と同じ心境である。昨今の科学の発展について行けないのが本音であるが、ロボットが軍事的に開発され利用されようとしている映像に、とてつもない不安を感じた。四つ足歩行のロボットが敵に向かって突進して行くのである。何とも不気味な姿だ。いつか二足歩行の人間型ロボットが介護の現場でかいかいしく仕事をこなす姿には心温まる。平和目的のロボット開発はドンドン発展して行くと欲しいし、今後ますます需要が高まって行くのは確実。それが人類の夢なのだから▼72歳の誕生日に思いがけない形で出会った掃除ロボットだが、この出会いの直後、ちよとした不注意から左足を怪我してしまい1ヶ月間の通院治療となった。しかし、右足が無事だったから車の運転は出来た。副子で固定した足を引かずなりながらも切目ない被災地視察ガイド、コットンの収穫作業等ボランティアの皆さんと一緒に取り組めた。それが自信となり感謝の日々を送れた。この1ヶ月間の出来事のおかげで思った事。それは97歳まで元気に生き抜いた母のように100歳を目標にしてもいいのかもしれない▼100歳の方々が全国で5800人(10年前の2.5倍)のうち女性は5万人(何と87%)という。さあ、中断した週一回の健康体操教室へも絶対参加しよう! 肯定的生き方からは何も生まれない。肯定的に物事を捉える生き方のなかにこそ、自他共の幸せがあるのだからと呟いた私である。(甘)